

正保城絵図の内題に関する考察

油 浅 耕 三*

(平成17年10月31日 受理)

A Study of “the title of inside” called “naidai” of “Shoho Shiro Ezu”(the maps of castle and castle town compiled by the order of the Tokugawa Shogunate, 1644)

Kouzou YUASA*

This paper, deals with “the title of inside of “Shoho Shiro Ezu”. As the results of this study, the author concluded the followings. There are most maps which drew a town in the sideways in the direction of the “Shoho Shiro Ezu”. And then, There is much the lower left in the sideways map in the position which “the title of inside” of “Shoho Shiro Ezu” is written in. There are many maps which “the name of the country of territory”, “the castle name” and “the seigneur name” are writing in turn, in “the title of inside of “Shoho Shiro Ezu”. As for the azimuth of the “Shoho Shiro Ezu”, relationship with the direction of the map and the writing in position of the name isn't attended.

Keywords : Shoho Shiro Ezu, Shiro Ezu (castle map), Jokamachi Ezu (castle town map), the Tokugawa Shogunate, title of Shoho Shiro Ezu (map)

1. 緒 言

伝えられている城や城下町の絵図の現状をみると、我が国では、江戸時代の初頭頃に、城絵図や町絵図が調製されだしたとみることができる。幕府の命令によって、全国の藩が調製し提出した城絵図は、「正保城絵図」が最初といえる。

従って「正保城絵図をもって当該都市の地図史の初発とする旧城下が少なくないのである」¹⁾といわれるように、正保城絵図は、各藩に伝えられている城と町絵図では最古といえるものであって、特に城と町を実測した絵図としての特色も併せてもっている。

このように、正保城絵図は、個々の城と町を各藩が実測し描くという、日本で初めての絵図調製作業であり、さまざまな調製に関する判断が求められたと推察される。

本論文は、この正保城絵図の内題について、城絵図の中にどのような位置にどのように書込まれ、城や町の表現との関係はどう見ればよいのか、などの考察を通して、城絵図調製のはじまりの一端を明らかにしようとするものである。

*建築学科 教授

2. 内題の位置

正保城絵図の調製条項は、国絵図とともにおよそ30項目の内容が出されている。仙台藩の正保城絵図の調製条項によれば、9項目が該当し、本丸・二丸・三丸の間数とか、堀や総曲輪の広さや深さのほか、侍町や町屋の軒数を書き付けるよう指示が出されている²⁾。

しかしながら、正保城絵図の外題や内題に関する条項はない。このことは、正保城絵図を調製するということが、幕府にとっても初めてのことで、外題や内題の書き込み内容にまで判断が行き届いていなかったとみることもできる。

ここでは、正保城絵図に描かれた城と町の表現様態と内題との関係を見るため、内題を取り上げるが、内題の理解を深めるため、外題との関係もみながら考察を進める。

管見する幕府へ提出された正保城絵図をみると、外題も内題の書き込み見られないものに小田原がある。この小田原は、正保城絵図の西北部分が「6分の1」程度欠けている。小田原以外の幕府へ提出された正保城絵図は、外題か内題が確認できることを考えると、この欠けた部分に内題や外題が書き込まれていたと推察することができる。

幕府へ提出された正保城絵図は、どの領国のどの城かを何らかの形で示すことが求められと判断される。正保城絵図の内題と外題をみると、小田原以外で、少なくともどちらかを書き込んでいると考察される。

幕府へ提出された正保城絵図の他に、各藩へ伝わる下絵図や控絵図とみられる正保城絵図3枚（犬山・富山・萩）を含め51枚の内題を整理したのが「Table 1」で³⁾、正保城絵図の内題の具体的な例を示したのが「Fig. 1・Fig.2」である。

町の形状の長短に沿う形で、矩形の絵図の長辺方向と短辺方向に町が描かれているといえる。「Table 1」によると、横型に町を描いた正保城絵図が28枚、縦型が23枚である。内題の書き込み位置は、縦型では、左下と右下が同数であるが、横型では、左下が19枚、右下が6枚である。また、縦型で右の中央部に書き込みのあるものが1枚みられる。

縦型と横型とも左下が多く、「Table 1」の51枚中約6割の30枚にあたる。右下は同様に約4割の20枚が確認できる。

3. 内題の名称

「Table 1」をみると、内題は、まず、「和州」とか「和泉国」、さらには「奥州之内南部」・「出羽国之内上山」「松平肥前守領分之内」などの領国を入れている。中には、「越後国古志郡之内長岡」のように「郡」を書き込んだものもみられる。

次いで「亀山」「西尾」などの地域名（13枚）とか「掛川城」などの城名（4枚）や「三原城所」（2枚）など城に関する名称をいれている。これに続く形で「本多内記」とか「岡部美濃守」・「戸沢右京亮居城」など藩主名を書き込んでいる。

同時に、絵図そのものでは、「城絵図」（16枚）や「城之絵図」（8枚）・「城之図」（4枚）がみられ、「城画図」という書き込みもみられる。

さらには、広島藩での、「安芸国広島城所」と「備後国之内三原城所」がみられる。この本

正保城絵図の内題に関する考察

Table 1 The title of inside of “shoho shiro ezu”

	城名	内題	位置	所蔵		城名	内題	位置	所蔵
畿内	大和郡山	和州郡山城絵図 本多内記 (横。北:右)	下左	国立公文書館	東山道	本荘	出羽之國由利之郡本城 六郷伊賀守 (縦。北:左)	下左	国立公文書館
	岸和田	和泉国岸和田城絵図 岡部美濃守 (縦。北:左上)	下右	国立公文書館		秋田	出羽国秋田郡久保田城画図 戸沢右京亮居城 (縦。北:下)	下右	国立公文書館
東海道	亀山	伊勢国亀山 本多下総守 (横。北:上)	下左	国立公文書館	北陸道	丸岡	越前国丸岡城之絵図 (横。北:左)	上右	国立公文書館
	松坂	伊勢国松坂古城之図 紀伊大納言 (横。北:上)	下右	国立公文書館		富山	越中国富山古城絵図松平肥前守領 分之内 松平淡路守当分罷在候 (横。北:下)	下左	金沢市立玉川図書館
	犬山	尾張国犬山 成瀬隼人正居城 (縦。北:上)	左下	徳川林政史 研究所		高田	越後国高田 松平越後之守居城 (横。北:左)	下右	上越市立高田 図書館
	刈谷	参州国刈谷 松平主殿頭居城 (横。北:下)	下左	国立公文書館		長岡	越後国古志郡之内長岡城之図 牧野右馬亮 (横。北:左)	中右 下右	国立公文書館
	西尾	三河国西尾 井伊兵部小輔 (横。北:右上)	下左	国立公文書館		村上	越後国村上城之絵図 本多能登守 (縦。北:上)	下右	国立公文書館
	田原	戸田主膳 (縦。北:上)	下右	国立公文書館	山陰道	亀岡	丹波国亀山城絵図 菅沼左近太夫 (横。北:上)	下左	国立公文書館
	掛川	遠州掛川城 (縦。北:左)	下左	国立公文書館		笹山	丹波笹山城之絵図 松平山城守 (横。北:上)	下左	国立公文書館
	世喜宿	下総国世喜宿城絵図 牧野佐渡守 (縦。北:左)	下左	国立公文書館		福知山	丹波国福知山平山城絵図 稲葉淡路之守 (縦。北:下)	下左	国立公文書館
	古河	下総国古河城絵図 牧野佐渡守 (横。北:右)	下左	国立公文書館		松江	出雲国松江城 松平出羽守 (縦。北:下)	下左	国立公文書館
	大垣	美濃国大垣城絵図 戸田左門 (横。北:右)	下左	国立公文書館		津和野	石見国津和野 亀并能登守居城 (横。北:右)	下左	国立公文書館
東山道	岩村	美濃国岩村丹羽式部 小輔居城 (縦。北:左)	下右	国立公文書館	津山	美作国津山城絵図 森内記 (横。北:下)	下左	国立公文書館	
	高遠	信州高遠城之絵図 (縦。北:左)	下右	国立公文書館	岡山	備前国岡山城絵図 松平新太郎 (縦。北:上)	下左	国立公文書館	
	上田	信州小縣郡上田城絵図 仙石越前守 (縦。北:左)	下右	国立公文書館	高梁	備前国松山城絵図 水谷伊勢守 (横。北:左)	下左	国立公文書館	
	飯山	信濃国飯山城 松平万助 (縦。北:上)	下右	国立公文書館	福山	備後国福山 水野美作守居城 (横。北:上)	下左	国立公文書館	
	沼田	上野国沼田 真田内記 (横。北:右)	下左	国立公文書館	三原	備後国之内三原城所 (横。北:上)	右上	国立公文書館	
	烏山	下野国烏山 堀美作守居城 (横。北:右)	下右	国立公文書館	広島	安芸国広島城所 (縦。北:上)	右上	国立公文書館	
	白河	奥州白河城絵図 松平式部大輔 (横。北:下)	上右 下右	国立公文書館	萩	長門国阿武郡萩 松平大膳大夫居城 (縦。北:上)	下左	山口県文書館	
	棚倉	奥州棚倉城之絵図 内藤豊前守 (横。北:下)	下左	国立公文書館	新宮	紀伊国新宮城之図 (横。北:上)	下右	国立公文書館	
	盛岡	奥州之内南部領盛平城絵図 南部山城守 (横。北:右)	下左	国立公文書館	徳島	阿波国徳島城之図 正保三丙戌年 十一月朔日 松平阿波守 (縦。北:左)	下右	国立公文書館	
	弘前	津軽弘前城之絵図 (縦。北:下)	下右	国立公文書館	丸亀	讃岐国丸亀絵図 山崎甲斐守 (横。北:下)	中右	国立公文書館	
	米沢	米沢居城 上杉喜平次 (縦。北:右)	下左	国立公文書館	大洲	伊予国大洲之絵図 加藤出羽之守居城 (横。北:下)	下左	国立公文書館	
	上山	出羽国之内上山絵図 土岐山城守 (縦。北:上)	下左	国立公文書館	小倉	豊前国小倉 小笠原右近太夫居城 (横。北:下)	下左	国立公文書館	
	新庄	出羽国新城絵図 戸澤右京亮居城 (横。北:下)	下右	国立公文書館	唐津	肥前国唐津城 寺沢兵庫守 (横。北:上)	下左	国立公文書館	
						臼杵	豊後之内臼杵之城絵図 (横。北:右)	下左	国立公文書館



Fig. 1 “The title of inside” of “Washu-koriyama Jo Ezu” (“Shoho Shiro Ezu ” of Yamato-koriyama, possession of national official document library)

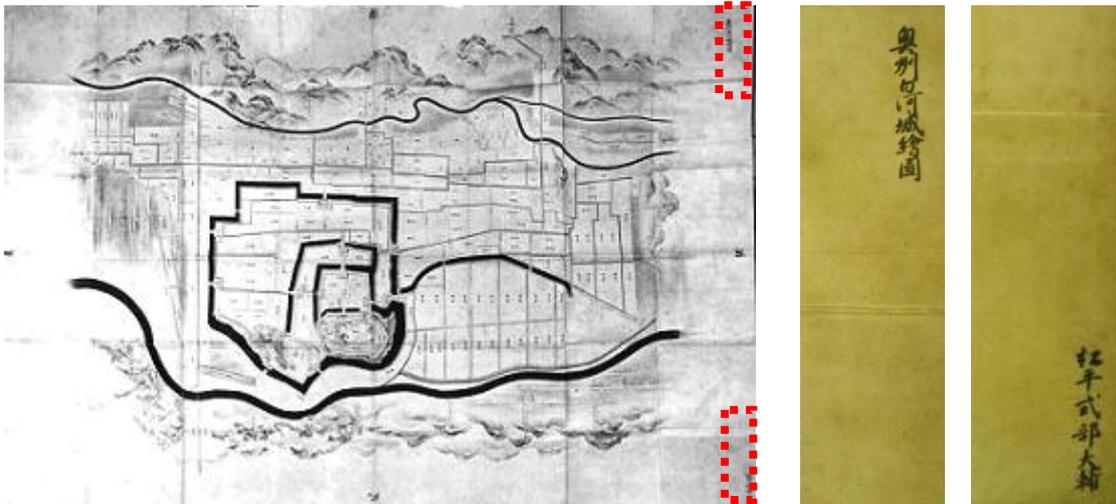


Fig.2 “The title of inside” of “Oushu-shirakawa Jo Ezu” (“Shoho Shiro Ezu ” of shirakawa, possession of national official document library)

城と支城の正保城絵図の調製については、広島藩の絵図調製の記録が伝えられており⁴⁾、絵図の名称も「城所」で統一されている。なおまた、田原の正保城絵図のように「戸田主膳」のみの書き込みもみられる。

全体としては、「領国名」・「城名」・「藩主名」を書き込んだものが最も多いといえるが、「領国名」と「城名」が続き文字で書き込まれ、「藩主名」の書き込みとの間をあけるか行を

変える形をとっている. このように, 内題の名称は, 藩ごとに違っており, 個々の藩の正保城絵図調製の違いが, 内題の名称の側面でもいえる.

4. 方位の書き込み様態

管見する正保城絵図には, 総て方位がみられる. 「Table 1」では, 岸和田 (Fig.3 参照)・西尾を除き, 正保城絵図の方位は, ほとんど, 絵図の上下左右中央部端に, 城を向く形で書き込まれている.

幕府へ提出された正保城絵図では, ほかに, 松坂・二本松・棚倉・竹田で同様に, 絵図に方角をもつ形で方位の書き込みがみられる.

この正保城絵図と同様に, 全国的な視点で各地の城絵図を編集した『諸国当城之図』⁵⁾ や『主図合結記』⁶⁾ の冊子本が伝えられている. このうち, 『諸国当城之図』には, 正保城

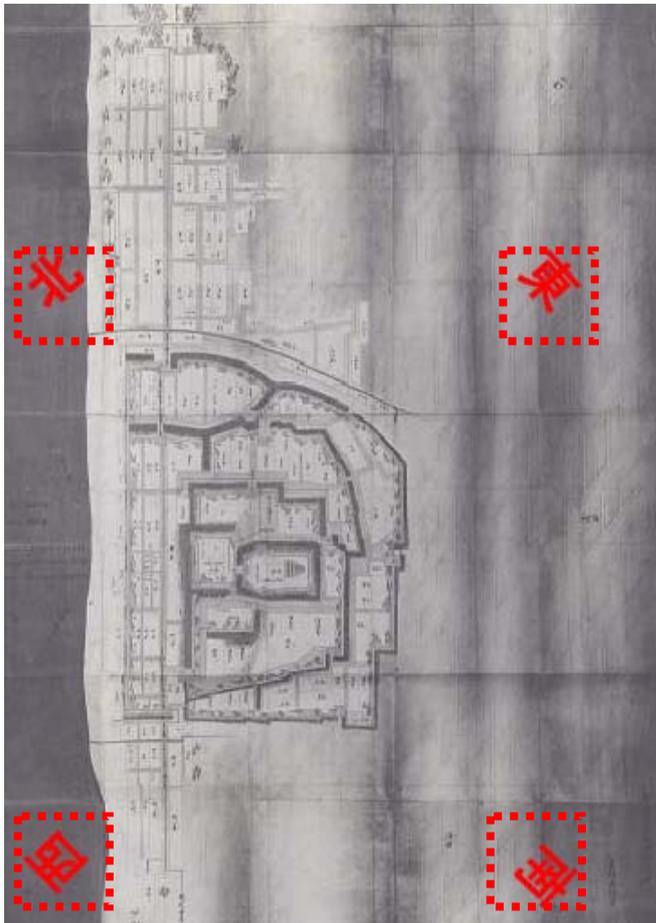


Fig.3 “The azimuth” of “Izumi-no-kuni Kishiwada Jo Ezu”
(“Shoho Shiro Ezu” of Kishiwada, possession of national official document library)

絵図同様, 方角をもつ形で方位の書き込みがみられるものも散見されるが, 『主図合結記』では, 総て, 見開きの上下左右中央部端に方位が書き込まれている.

正保城絵図調製当時の絵図における方位の表示は, 大雑把な書き込みで, 城や町の形状を優先した描かれ方であったとみることができる.

この町の表現を優先する地図は, 明治・大正以降でも一貫して引き継がれてきていると考察できる⁷⁾.

5. 結 言

内題は, 絵師の責任のみで書き込んだとは考えにくく, 藩の意向を受けて最終的に内題の名称や文字の大きさとか, 書き込む位置が決定されたとみることができる. 正保城絵図の名称を, 内題とするのか外題とするのか, あるいは共に書き込むか付箋にするのかといった側面も調製の

過程で存在したと推察される。

いずれにしても、各藩が提出した正保城絵図の内題は、はじめての町絵図調製への対応ぶりを表していると判断できる。

今後は、本考察と併せ、外題との関係を見るのが重要であり、このことにより、当時の正保城絵図の調製と提出の状況がみえてくると考えられるのである。

文 献

- 1) 矢守一彦編：『名城絵図集成・東日本之巻』，小学館，1986，12，p. 6.
- 2) 『忠宗君記録引証記』（国立公文書館蔵）。
- 3) 「Table 1」の、「（）」内は、縦書きに書き込まれた内題が、上から下へ文字がたどれる方向で正保城絵図を見る時、正保城絵図の大きさが、縦方向に長いものを「縦」、横方向に長いものを「横」と書き込み、方位の「北」や、内題も同様に見た時に書き込まれている文字の位置を示す。
- 4) 広島藩には、「国絵図・城絵図作成に関する書付」（玄徳公済美録卷十六）が伝えられているが、広島より三原の正保城絵図は、小さく調製するよう指示もだされている。広島県編：『広島県史・近世資料編Ⅲ』，広島県，1973，3，p. 98.
- 5) 17世紀末頃の全国の城持大名の居城を編集した冊子本で、各丁ごとに城と町がみられる。原田伴彦・矢守一彦編：『浅野文庫蔵諸国当城之図』，新人物往来社，1981，12，pp. 1-262. ほかの冊子本がある。
- 6) 編集年代は、貞享4年（1687）～明和6年（1716）と考察された冊子で、見開きごとに城と町がみられる。矢守一彦編：『城郭図譜主図合結記』，名著出版，1974，3，pp. 1-463. ほかの冊子本がある。
- 7) 地図資料編纂会編『明治大正日本都市地図集成』，柏書房，1986. 10，pp. 1-123. 地図資料編纂会編『昭和戦前 日本都市地図集成』，柏書房，1986. 10，1-124丁. ほか.